

予測困難な時代であっても

校長 尾形徳昭

正月、箱根駅伝では最終区で大逆転が起きた。新型コロナウイルス感染症は、発生から1年以上経った今でも終息の兆しが見えない。3月13日完成予定の泉外旭川駅のおかげで周辺の景観が大きく変わり、北西の風が強くなった。

最近「予測困難な時代」と言われるように、将来を見通すのが極めて難しい状況である。まさに「何が起こるか分からない」社会に私たちは身を置いている。それに加え、感染すれば体調に大きな影響を与えるといわれる目に見えない病魔が近くに存在している。そのような中で私たちはどう生きていくべきなのだろうか。分からないことが多いからこそ、分かること、確かなこと、安心できることへの願望が強くなったような気がする。

コロナ禍において、感染拡大を防ぐ手立てとして推奨された「新しい生活様式」は、徹底すれば感染はほぼ100%防げるものと思っている。自分が感染しないよう十分予防し、万が一感染した場合でも、周囲の人たちに感染させないよう配慮すれば、感染拡大は確実に防げる。世の中にコロナウイルスが蔓延しようと、科学的な根拠にもとづき、しっかり対策を講じることが一番肝要なことだと思っている。手洗い・うがいに消毒。換気や大声を出さないこと、3密を避けること等を励行することで、今後も感染者を出さないことができると思っている。努力を続けていきたい。

この1年間、「新しい生活様式」に慣れながら生徒も先生も課題研究や授業改善などいろいろな研究に取り組んできた。そこには確実なこと、確認できたこと、可能性があることなどが少しずつ増えてきた。とても激しかったコロナの影響でデジタル化が一気に進んだ。ありがたいことだ。その方面の対応もどんどん進んでいる。教師側が追いついていくのが大変である。先生方の意識改革を促したい。ただ、対面型の授業の醍醐味を忘れてはならない。生徒の反応や発言等に対して臨機応変に教師の発問を変えていくなどしながら生徒をよりよい方向に導いていくことを忘れてはならない。授業はあくまでキャッチボールである。

新学習指導要領の実施を前に主体的、対話的で深い学びを实践するよう研究を進めてきたし、生徒の生きる力も育んできた。いずれ生徒はこの学び舎を巣立って一人で生きていかななくてはならない。どんな社会でも、せめて最低限の生活は営める生徒として旅立たせてやりたい。大切なことは何か。それも自分で考えさせたい。教師が研鑽を積み、生徒も自ら努力しながら教師の指導を受ける。師弟共励の精神で歩むのがいい。本校が教師も生徒も、ともに高め合う人々の集まりになってくれることを願う。

御高覧いただきました皆様には、どうか今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。